

「情報科教育法 I」の授業評価

数学教育講座・平田浩一

1. 調査科目と方法

調査を実施した「情報科教育法 I」は、2 回生後期の授業で、高等学校「情報」の指導法に関する科目である。また、法文学部総合政策学科との合同開講している。

授業の進め方としては、最初の 3 回を使って、情報化社会の実態と情報教育の課題、普通教科「情報」の教育目標と教育内容について授業を行い、その後は実教出版の高校教科書「情報 A」「情報 B」「情報 C」と「学習指導要領解説」を使い、学生による PowerPoint を使った模擬授業形式の演習を行っている。また、模擬授業形式の演習は学生相互に採点票を用いて評価とコメントを記入してもらっている。採点票の集計にはアンケート集計用の Web ページを作成しているのでそれに書き込んでもらっている。

授業開始時には教育学部生 11 名、法文学部生 5 名でスタートしたが、徐々に学生が減り、最終的に単位取得ができたのは教育 7 名、法文 1 名であった。

授業評価の調査方法は 12 項目からなるアンケート用紙を配り記入してもらった。そのうち 9 項目は選択形式で、選択肢は 4 段階で、1. 強くそう思う(非常によい)、2. ややそう思う(よい)、3. あまりそう思わない(あまりよくない)、4. 全くそう思わない(よくない)とした。残り 3 項目は自由記述方式とした。8 名のアンケート回答があり、それをもとに集計を行った。

2. 調査結果

選択形式のアンケート 9 項目の結果は以下のとおりである。数字はパーセント。

	1	2	3	4
1. シラバスにそっていたか	38	38	25	0
2. 内容や質は適切だったか	50	50	0	0
3. レベルは大学の授業にふさわしかったか	50	50	0	0
4. 教員志望の学生に役立だったか	63	38	0	0

5. PowerPoint を使った模擬授業演習はよかったか	100	0	0	0
6. 演習の回数や量は多かったですか	0	88	13	0
7. 演習の学生相互評価はよかったですか	88	0	13	0
8. Web による採点票入力システムは使いやすかったか	13	63	25	0
9. 意欲的にとりくんだか	63	38	0	0

この集計からは、項目 5 と項目 7 にとてもよい評価をいただいた。逆によくなかったのは項目 1 と項目 8 であった。

自由記述形式の項目には以下のような回答をいただいた。

[項目 10. この授業でよかったと思う点、印象に残った点をあげてください]

- ・実践的であった点
- ・模擬授業という形式は作る側と見る側どちらからも気づく点が多かったと思う。
- ・いろいろな人の発表でいろいろな考えにふれることができよかったです。

[項目 11. この授業でよくなかったと思う点、改善すべきと思う点をあげてください]

- ・欠席による進行の乱れが多発したこと
- ・パワーポイントの質によって授業の濃さが変わってくる。

[項目 12. その他、授業を受けて気づいた点、感じた点、何かありましたらあげてください]

- ・休んだ人の補充を何らかの形でした方がいいのではないかと

3. 結果の概略と感想

アンケート集計用の Web ページは携帯電話からのアクセスに問題があり、学生からの評価はよくなかった。受講生が減ってきた頃から模擬授業演習の当たる周期がはやまり演習の回数が多かったとの意見が出ている。

今後も授業の進め方等に工夫をし、より良い授業へと改善していきたいと考えている。